

# 職能科通信 33号

2016年6月発行 職能科通信

検索

〒243-0121  
神奈川県厚木市七沢 516  
神奈川県リハビリテーション病院  
職能科  
TEL&FAX 046-249-2575

## 新年度を迎えて

新年度を迎え、職能科では新採用職員や人事異動により新体制となりました(写真1)。今年度も、神奈川県リハビリテーション病院に入院されております患者さん及び外来患者さん、七沢自立支援ホーム(旧七沢更生ライトホーム)の利用者さん、そして神奈川県民の皆様や地域の医療機関・支援機関の方々に、医療機関の立場で提供する職業リハビリテーションサービスを提供します。また、サービスの質の向上に向けた研鑽を行ってまいります。今後とも、ご指導とご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。(松元 健)



写真1 職能科職員

## 平成27年度の支援のまとめ

平成27年度は612名の方の支援を行いました。利用者さんの所属別内訳は、外来46%、入院48%、七沢更生ライトホーム4%、七沢学園2%でした。障がい別の内訳では、外傷性脳損傷・脳血管障がい・脳疾患など脳損傷の方が78%、脊髄障がい・その他(難病など)の方は19%でした(図1)。また、就職・復職をされた方は72名でした(表1)。

(松元 健)

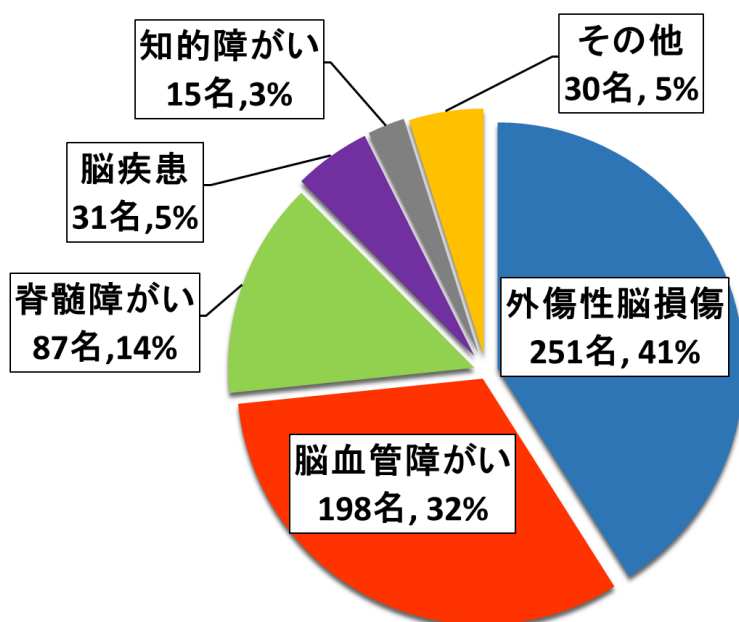


図1 平成27年度利用者(612名)の障がい分類

表1 平成27年度の就職者数

就職形態	人数	障がい別	人数	
新規就労	19名	外傷性脳損傷	6	
		脳血管障がい	5	
		脊髄障がい	1	
		脳疾患	3	
		知的障がい	3	
		その他	1	
復職	49名	外傷性脳損傷	23	
		脳血管障がい	16	
		脊髄障がい	3	
		脳疾患	4	
		その他	3	
自営	4名	外傷性脳損傷	1	
		脳血管障がい	2	
		脊髄障がい	1	
		脳疾患	0	
			その他	0
			<b>72名</b>	

## 職能科 能力開発部門(自立支援)での支援について

職能科に来られる入院・外来患者の方々には様々な状態の方がおられ、そのニーズも多岐に渡ります。そのため、職能科には就労支援と能力開発の2つの部門があり、就労に関する支援を提供する一方で、在宅や地域移行・復学に向けた支援、余暇活動などのアクティビティの提供、認知面の向上に向けた支援なども行っています。

平成27年度では、能力開発部門で支援した方は職能科利用者の4割程を占めています。社会復帰状況としては、当院外来など支援中の方を除くと在宅生活を送りながら、地域資源・デイケアなどを活用されている方の割合が最も多く64%、次いで復学14%、入所施設移行9%、転院7%、その他6%となっています。

基本となる訓練課題・教材は、彫金や手芸などの制作課題、組立課題、PC課題、脳トレ・認知課題等を提供しています。次のステップに繋げるうえで今やるべきことは何かを考えながら支援を組み立て、お一人お一人の状態にあった課題の選定、即した支援が行えるよう努力しております。また、患者さん同士がコミュニケーションを取りながら取り組めるような場面の設定も、対人技能や認知機能などの向上のために重要であると感じており、グループ訓練についても導入していく予定です。

(今野 政美)

## 職能科 就労支援部門での支援について

就労支援部門では就労に関する様々な支援を行っています。その支援内容としては、個別・集団訓練や、ハローワークの専門援助部門の統括にお願いしている障害者雇用に関する講話などの職業準備学習、心理科と共同で行う問題解決プログラム（職能科通信26号参照）や、復職された障がい当事者の体験談をお聞かせいただくセミナー、また、事業所・関係機関等との就労・復職に向けた調整などが挙げられます。



平成27年度、就労支援部門で支援し、社会復帰された149名のうち、新規就労・復職・自営業など就職された方が44%、復職待機や在宅生活など家庭復帰された方が29%、フォローアップとして関わらせていただいた方が12%、その他15%となっています。

利用される方の中には、外傷性脳損傷や脳血管障がいによる高次脳機能障がいの方が多くいらっしゃいます（表面参照）。高次脳機能障がいは日常生活や働く場面でその影響が現れることがあり、ご本人や周囲の方々にとってわかりづらい、気づきにくい障がいであるといえます。また、お身体に麻痺が残るなどの身体障がいの方は、障がいの状態に合わせた就労環境、健康面への留意、安全な作業遂行方法等を考えていくことが大切になってきます。障がいへの気づきにアプローチするプログラムや、リハスタッフと連携して包括的にアプローチするプログラムを今後も提供していきたいと思っております。

(山本 和夫)